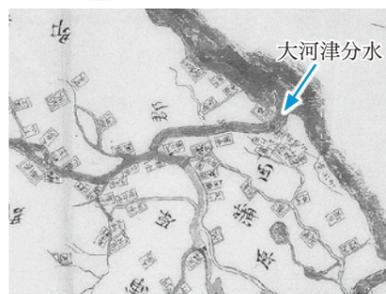


■問合せ 土木課 河川水防係 ☎0256・77・8274

## 大河津分水工事 着手に至るまで



▲「北越治水策」添付図面(一部拡大)

大河津分水が無かった江戸時代から明治時代にかけて、信濃川は3年に1度の頻度で決壊し、越後平野は洪水氾濫を繰り返していました。信濃川から日本海に水を注ぐ分水路を建設する計画が初めて江戸幕府に請願されたのは享保年間の頃。その後約150年もの間、私たちの先人たちは私財を投じて幕府や明治政府に要望し続け、1870年(明治3年)ようやく工事着手となりました。

しかしながら、大河津分水ができるまで新潟港への河川水量が減少して水深が浅くなり、船の出入りができなくな

**私財を投じて請願、  
着工も工事中止に**

大河津分水が無かった江戸時代から明治時代にかけて、信濃川は3年に1度の頻度で決壊し、越後平野は洪水氾濫を繰り返していました。信濃川から日本海に水を注ぐ分水路を建設する計画が初めて江戸幕府に請願されたのは享保年間の頃。その後約150年もの間、私たちの先人たちは私財を投じて幕府や明治政府に要望し続け、1870年(明治3年)ようやく工事着手となりました。

しかしながら、大河津分水ができるまで新潟港への河川水量が減少して水深が浅くなり、船の出入りができなくな

なってしまうと外国人技師からの報告を受け、1875年(明治8年)に工事は中止することになりました。

**立ち上がった  
長善館の門下生たち**

工事中止後も洪水が繰り返し起きる中、1896年(明治29年)7月22日に大洪水「横田切れ」が発生しました。この大洪水では、越後平野一帯が泥の海と化し、農作物は全滅。チフスや赤痢などの伝染病も蔓延し、洪水による死者と併せて12000人を超える人が命を落としました。

これまでも建設に向けて請願を行ってきた越北の鴻都「長善館」の門下生たち。この洪水後、彼らの働きかけにより大きく動き出します。

門下生の一人、高橋竹之介は1897年(明治30年)に『北越治水策』を発表。越後平野に大河津分水をはじめ、関屋分水や刈谷田川分水の整備の必要性を記しています。

同じく門下生で当時、国會議員だった萩野左門や大竹貫一らは帝國議会で越後の治水の必要性を訴えました。



# 来年、「大河津分水」は 通水100周年を迎えます

全国には、荒川(東京)や、淀川(大阪)、北上川(宮城)、石狩川(北海道)など、河川の越水による洪水を防ぐために人工的に造られた放水路があります。

それらと大河津分水が違うのは、地域の人々が幾度の水害と闘いながら、分水路の整備に向けて立ち上がり、民意主導で建設を実現してきたことです。

大勢の先人たちの願いと努力によって造られ、越後平野を水害から守っている大河津分水。来年8月25日に通水から100周年を迎えるにあたり、分水路の今昔に触れてみたいと思います。

写真：大河津可動堰

## 日本一の大河の洪水から 越後平野を守る分水路

人工的に造られた  
大河津分水

日本最長の河川、信濃川。その長さは367kmで上越新幹線の新潟ー東京間と同じくらい。1年間に流れる水量も約159億m<sup>3</sup>と日本一です。この大河の洪水から越後平野を守るため、人工的に造られた河川が大河津分水です。信濃川本川にある洗堰は、信濃川下流へ生活や農業などに必要な用水を毎秒270m<sup>3</sup>に調節して流しています。いざ洪水時には、大河津分水にある可動堰のラジアルゲートを開閉して日本海に放水します。ラジアルゲートの堰としては日本最大規模です。



写真：洗堰

※ラジアルゲート・・・表面が円弧状で、その曲線の中心を軸として回転することで開閉する構造のゲート。

### 長善館と大河津分水建設に尽力した門下生

大河津分水の建設に向けて議論し、東奔西走しました

「長善館」は、1833年に鈴木文臺によって粟生津村(現・燕市)に創設された私塾。楊軒、柿園、彦嶽の先生が閉館までの約80年間にわたり、約千人の塾生を教育しました。初代館主の文臺は良寛とも親交があり、中国の古典を中心に教え、政治家や医学者、漢文学者など多方面で活躍した門下生を輩出しました。



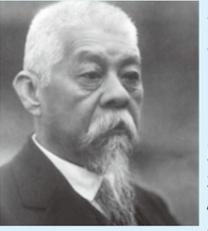
わしおまさなお  
**鷲尾政直**  
1841～1912  
黒鳥村(現・新潟市)出身  
治水運動を推進。治水に関する実務を重ね「西蒲原郡治水起工議」を作成、提言した。



たかはし takekazu  
**高橋竹之介**  
1842～1909  
杉之森村(現・長岡市)出身  
『北越治水策』をまとめ、山縣有朋や松方正義に大河津分水の建設を請願した。



はぎの さもん  
**萩野左門**  
1851～1917  
板井村(現・新潟市)出身  
政治家(国會議員、県議)として信濃川改良工事や新川掘削・改良に尽力した。



おおたけ かんいち  
**大竹貫一**  
1860～1944  
中之島村(現・長岡市)出身  
政治家(国會議員、県議、村議)として横田切れの惨状と分水路整備の必要性を訴えた。

|                           |  |
|---------------------------|--|
| 1716年～<br>1735年<br>(享保年間) | 寺泊(現・長岡市)の豪商、本間屋数右衛門が大河津分水の建設を江戸幕府に請願。起工には至らず。                                 |
| 1842年                     | 幕府が測量調査を実施。莫大な費用および周辺集落の反対により起工には至らず。この間にもたびたび大洪水が発生。                          |
| 1869年                     | 政府は大河津分水の開削を発表。ようやく工事を行うことが決定。   |
| 1870年                     | 大河津分水工事(第1期)起工式が行われ、工事が開始。   |
| 1875年                     | 政府は外国人技術者の意見をもとに <b>工事を中止</b> 。100人以上の人々が大河津分水の必要性を訴えるも、再開には至らず。               |
| 1882年                     | 長善館の門人・警尾政直、萩野左門、小柳柳三郎らが幹部となり信濃川治水会社を設立。分水工事再開のための運動を広める。                      |
| 1896年<br>7月22日            | 「横田切れ」が発生。越後平野のほぼ全域が約1カ月にわたって浸水。人々は食料や住居を失い、伝染病が広がる。                           |
| 1897年                     | 長善館・門人の高橋竹之介が『北越治水策』を考案。山縣有朋らに建白。  |
| 1907年                     | 帝国議会で大河津分水工事(第2期)を含む信濃川改良工事が決定。  |
| 1909年                     | 大河津分水工事(第2期)が開始。工事は13年にわたる。  |
| 1910年                     | 山宮半四郎(名誉市民)が桜の植樹と記念公園の設置を提案。その年の秋から堤防沿いに植樹を始める。                                |
| 1922年<br>8月25日            | 大河津分水の通水を開始。   |
| 1927年                     | 6月に自在堰が陥没。同年12月から信濃川補修工事が始まる。青山士、宮本武之輔の指揮のもと、陥没した自在堰に代わる可動堰と、川底の洗掘を防ぐ床留・床固を建設。 |
| 1931年                     | 信濃川補修工事が完了。  |
| 1978年                     | 信濃川大河津資料館が開館。  |
| 1992年                     | 本流側の堰である洗堰の改築工事に着手。  |
| 2000年<br>5月29日            | 新しい洗堰に通水。使用されなくなった旧洗堰は近代化産業遺産、国の登録有形文化財に登録。                                    |
| 2002年                     | 洗堰改築工事完成。  |
| 2003年                     | 可動堰の改築事業に着手。   |
| 2011年                     | 新しい可動堰に通水。   |
| 2014年                     | 可動堰改築工事完成。   |
| 2015年～                    | 大河津分水路改修事業が起工。「令和の大改修」は現在も続く。  |

## これからの道のり

**令和14年まで続く  
総事業費1200億円の「令和の大改修」**

信濃川補修工事完成後も大河津分水の河床の補強、洗堰・可動堰の老朽化に伴う改築などが実施されてきました。しかしながら、洪水処理能力の不足、川底を守る要の施設である第二床固の老朽化、さらには河床低下による右岸部(国上山側)の地すべりの危険性などの課題を抱えており、2015年(平成27年)から河口左岸の山地部や河川敷の掘削、第二床固の改築、野積橋の架替などの改修工事に着手しています。

令和14年(令和14年)まで、全体事業費は約1200億円というまさに令和の大改修です。この大改修により、河口付近の川幅が現在の180mから280mに拡張され、洪水時の大河津分水の水位を大幅に下げることができ、さらには、堤防決壊による洪水の危険性が少なくなります。さらに一昨年の台風19号で甚大な被害が発生した上流の長野県区域や信濃川中流域でも河川改修を進めることができるため、信濃川流域全体の洪水に対する安全性が高まります。



▲山地部掘削土を活用したほ場整備(分水地区)



▲渡部橋周辺の河川敷掘削



▲「令和の大改修」大河津分水の河口周辺の工事状況

## これまでの歩み

**延べ1千万人が従事した東洋一の工事**

長年、水害と闘ってきた多くの人々の分水路建設の熱意が高まっていく中、1907年、帝国議会で信濃川改良工事が決定され、その2年後、政府の直轄工事として再開しました。

分水路の建設には、信濃川から日本海までの約10kmを掘削する必要があります。加えて、その途中にある丘陵地の山を切り開かなければなりません。

そこで日本で初めて世界最新鋭の大型機械を導入。10トンダンパーが地球1周するほどの土量(約2800万m<sup>3</sup>)を掘削しました。

このほか、洗堰や国内初となる自在堰の建設など、地元の人々を含めて延べ1千万人が建設に従事したことから、当時の新聞でも「東洋一の工事」と評されています。

工事は三度の地すべりを乗り越えながら15年にわたって行われ、1922年(大正11年)8月25日、ついに大河津分水が通水しました。

**通水後も続いたさらなる困難を乗り越えて**

通水した大河津分水でしたが、自在堰が1927年(昭和2年)に突如陥没。原因は水の流れにより川底が削られたことによるものでした。

この窮地を救ったのは、パナマ運河の建設に唯一日本人として携わった青山士と、荒川など国内の河川改修を手掛けた宮本武之輔。二人の技術者は「信濃川補修工事」として陥没した自在堰に代わる可動堰と川底の洗掘を防ぐ床留・床固の建設を指揮し、「吊い合戦」と称して、わずか5年後の1931年(昭和6年)には全ての工事を終えました。幕府に初めて請願してから200年経過してこの



あおやまあきら  
**青山士**  
1878～1963  
静岡県出身

土木技術者。パナマ運河や荒川放水路などの建設に携わる。内務省出張所の所長として赴任し、信濃川補修工事の指揮にあたる。



みやもとたけのすけ  
**宮本武之輔**  
1892～1941  
愛媛県出身

土木技術者。上司の青山士所長の下、信濃川補修事務所主任として自在堰に代わる可動堰などの施設の設計、施工を陣頭指揮する。

とでした。

以来、大河津分水は信濃川の氾濫を防ぎ、旧西蒲原郡では耕地の改良も進んだことで、水稲の収穫量は10アールあたり500～600kg、通水前に比べ約2～3倍にまで増加するなど、湿地帯だった越後平野は日本有数の穀倉地帯に発展しました。

また信濃川下流域では約800mもあった信濃川の川幅が約300mにまで縮小。以前は川だった場所が農地や宅地として利用できるようになり、新たな開発も進みました。さらに低平地の排水性が向上した越後平野の中央部には高速道路や新幹線などの交通網が整備され、首都圏との結びつきが深まるなど、大河津分水は燕市をはじめとする周辺地域の発展を支えてきたのです。



▲通水して以来、越後平野を信濃川の洪水から守っている大河津分水。



▲斜面を切り崩し、土砂をトロッコに積み込んだ「エキスカベーター」。



▲イギリス製の岩盤掘削機「スチームナビー」。

# 燕大学 TSUBAME UNIVERSITY の受講生を募集します

今年度のテーマは  
**大河津分水  
長善館**

**入場無料**  
定員:各30人

今回は大河津分水の通水 100 周年に合わせて、大河津分水の建設に尽力した長善館の門人にスポットを当て、深く掘り下げて講義を行います。



| 1 回目     | ●テーマ                    | ●講師                         | ●会場                |
|----------|-------------------------|-----------------------------|--------------------|
| 8月28日(土) | 「東洋一の工事 大河津分水」          | 信濃川大河津資料館コーディネーター<br>樋口 勲さん | 中央公民館<br>(3階中ホール)  |
| 2 回目     | ●テーマ                    | ●講師                         | ●会場                |
| 9月25日(土) | 「高橋竹之介と北越治水策」           | 新潟県立歴史博物館 学芸員<br>田邊 幹さん     | 分水公民館<br>(3階視聴覚室)  |
| 3 回目     | ●テーマ                    | ●講師                         | ●会場                |
| 10月2日(土) | 「大河津分水建設に尽力した長善館の門下生たち」 | 長善館史料館 館長<br>横山 文一さん        | 粟生津公民館<br>(2階大会議室) |

※各回いずれも午前 10 時～11 時 30 分の開催

- 対象 燕市在住・在勤の高校生以上の人
- 申込方法 8月5日(木)～電話にて
- その他 出席可能な回のみ参加も可能です。来場の際は、マスクの着用・検温・手指の消毒にご協力ください。
- 申込み・問合せ 中央公民館 ☎0256・63・7001

## 教えて！「令和の大改修」

**Q. 令和の大改修の進捗状況はいかがですか？**  
山地区と渡部地区の河川敷の掘削工事では、延べ1000万m<sup>3</sup>(東京ドーム約8杯分)に及ぶ掘削土を燕市内のほ場整備事業や堤防強化に用いるなど、地元の方々の協力を得ながら、順調に進んでいます。第二床固の改築工事や野積橋の架替工事も、昨年の台風19号の影響を受けつつも着実に工事が進んでいます。

**Q. 改修後の分水路はどうなりますか？**  
改修後に台風19号と同じ規模の洪水が発生した場合、可動堰付近で約2mの水位低下が可能になります。

**Q. 改修後の分水路はどうなりますか？**  
令和の大改修は、河口近く(長岡市寺泊野積)にある大河津分水路「令和の大改修」の情報発信基地「ここみえくる館」で工事の様子を見ることが出来ます。ぜひ、足を運んでください。

**Q. 工事を見学できますか？**  
令和の大改修は、河口近く(長岡市寺泊野積)にある大河津分水路「令和の大改修」の情報発信基地「ここみえくる館」で工事の様子を見ることが出来ます。ぜひ、足を運んでください。

**Q. 工事を見学できますか？**  
令和の大改修は、河口近く(長岡市寺泊野積)にある大河津分水路「令和の大改修」の情報発信基地「ここみえくる館」で工事の様子を見ることが出来ます。ぜひ、足を運んでください。



国土交通省 北陸地方整備局  
信濃川河川事務所 調査課長  
西村 雄喬さん



大河津分水 通水100周年  
1922 - 2022

### 大河津分水Twitter川柳コンテストを開催！

つばめ若者会議-燕ジョイ活動部-が、大河津分水通水 100 周年の情報発信のために、Twitter を活用した川柳コンテストを開催します。Twitter を通じて、一緒に大河津分水の魅力発信していきましょう！

申込方法や実施概要などの詳細はこちらから  
つばめ若者会議公式ウェブサイト▶▶



### 分水良寛史料館・長善館史料館 夏の企画展

期間：7月20日(火)～8月22日(日) 午前9時～午後4時30分  
休館日：月曜日(祝日の場合は翌日)

分水良寛史料館 ☎0256・97・2428

「良寛に学ぼうー良寛と大河津分水前夜ー」  
入館料：大人300円 高校生・学生200円  
小・中学生100円

長善館史料館 ☎0256・93・5400

「二代館主 鈴木楊軒と多才な門人たち そのIII  
ー先進的教育と大河津分水実現に向けた門人たちの活躍ー」  
入館料：大人100円 高校生以下50円

※どちらも、市内の小・中学生と付き添いの保護者1人は  
ミュージアムパスポートで夏休み期間中入館無料



### 大河津分水通水 100 周年の PR ブースを燕三条 Wing に設置します！

つばめ若者会議きっかけづくりチーム「れつつばめ」、新潟経営大学中島ゼミ、大河津分水を拠点に活動する団体「Love River Net」の3者がコラボレーションし、大河津分水通水 100 周年に向けて、無病息災・運気向上をテーマにした『大河津分水神社』の建立と通水 100 周年の PR ブースを燕三条 Wing に設置します。

- 日時：8月11日(火)～31日(火)まで
- 場所：燕三条 Wing (JR 燕三条駅内)
- 内容：地元企業と協力して作成した鳥居や祠を建立します。また、パネル展示や通水から約 100 年間、大河津分水路の第二床固で使用されたコンクリートを使用したお守り『通水石のお守り』や限定グッズがあたるガチャガチャを設置します。

協力：沖野彫刻



Love River Net 代表  
信濃川大河津資料館コーディネーター  
樋口 勲さん

「Love River Net」はもっと気軽に大河津分水に来て、川に関心をもってもらい、その楽しさを感じてもらいたい思いから2014年に立ち上げました。

ポートに乗って大河津分水に繰り出してみたい、竹水鉄砲合戦をしてみたり。

5年前には横田切れカレというのを作りました。地元の飲食店さんに何度も相談に乗ってもらい、調理もご協力をいた

だき、イベント限定で作ってもらったのです。このときに感じたのは、地域の皆さんの大河津分水に対する強い思い。その熱意が私たちの活動を後押ししてくれています。感謝がありません。

それと子どもたちも大人に負けないくらい大河津分水のことを考えてくれています。分水小学校の子どもたちが、信濃川大河津資料館のガイドをするためにたくさん勉強

子どもたちはこの活動を通じて大河津分水はスゴイところだなと感じてくれたかもしれません。ですが、それよりもこの活動を通じて、いろいろな人たちに喜んでもらったことが子どもたち一人ひとりの心に残り、大きく成長してからも「ふるさと」を大切に思ってくれたら、嬉しいなと思います。

子どもたちはこの活動を通じて大河津分水はスゴイところだなと感じてくれたかもしれませんが、慣れてくると何も見ず、立派にガイドができるようになりとても感動しました。

最初のうちはメモを見ながらのガイドでしたが、慣れてくると何も見ず、立派にガイドができるようになりとても感動しました。



▲大河津分水を楽しく学ぶ。

川と一緒に楽しみながら、  
地域の人がつながってほしい